

いのち
生命のにぎわい調査団
いのち
生命のにぎわい通信

第52号：発行 令和元年（2019年）9月

赤と黒の生きものたち

発行：千葉県環境生活部自然保護課
千葉県生物多様性センター

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2
（千葉県立中央博物館内）
TEL 043-265-3601 FAX 043-265-3615
URL <http://www.bdcchiba.jp/monitor/>
E-mail monitor@bdcchiba.jp

今号では赤と黒の2色の生きものを取り上げました。赤と黒の組み合わせは、しばしば自分が毒などを持って危険であることを外敵に伝えるシグナルとしてはたります（警告色）。また、毒を持っている生きものの色や姿に似せることで外敵をだます（擬態）生きものもいます。独特な体の色は生き残るための戦略のひとつなのです。そんな「色」を巧みに使う生きものたちを紹介します。
＊にぎわい調査団ホームページに今号で扱ったテーマをより詳しく解説しますので、団員の方はぜひご覧ください（https://www.bdcchiba.jp/monitor/houkoku/h2019_09.html）。（写真右下は撮影者の団員番号、種名の右の「県」は千葉県のレッドデータブックのランクです）。

警告色



アカハライモリ 県：A
全長 70 ～ 140mm

平地から丘陵地の池沼や川、水田などに生息。フグと同じテトロドトキシンという毒をもち、体をよじり腹の赤と黒の模様を外敵に見せる。



アオバアリガタハネカクシ
全長 6.5 ～ 7.0mm

平地から山地の湿地に生息。アリに似た小さな虫だが、ペデリンという毒をもち、知らずに触れると皮膚が腫れることもあるので注意が必要。



アカスジカメムシ
全長 9 ～ 12mm

平野から山地に生息。背は赤と黒の縞模様、腹はまだら模様になる。毒は持たないが、くさい臭いを発する。



ジャコウアゲハ
開長 75 ～ 100mm

平地から山地に生息。ウマノスズクサという植物を幼虫期から食べ、毒を蓄積する。よく似るクロアゲハ、オナガアゲハは本種に擬態。



ゲンジボタル 県：B
全長 10 ～ 16mm

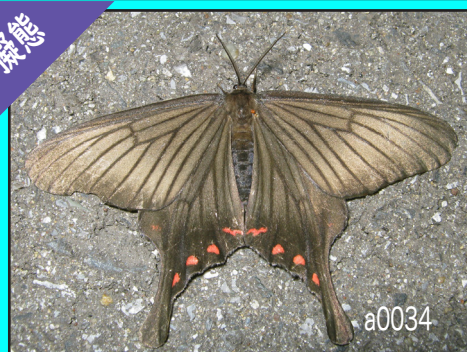
平地から山地の細流に生息。ステロイド系の毒をもつ。体色だけでなく、発光することも警告の意味をもつという説もある。



ナナホシテントウ
全長 5.0 ～ 8.6mm

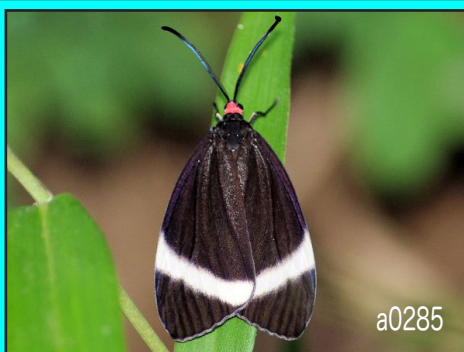
平野から山地に生息。危険を感じると苦くてまじい液体を出す。テントウムシに擬態するハムシやゴミムシ、ゴキブリなども存在する。

擬態



アゲハモドキ
開長 55 ～ 60mm

丘陵から山地に生息。ジャコウアゲハに擬態しているガの一種。ジャコウアゲハよりも小型で触覚の先端が玉状でないことで識別可能。



ホタルガ
全長 30mm

平地から丘陵に生息。ホタルに擬態しているガの一種。前翅に白帯があり、類似種のシロシタホタルガは白帯の位置が上方になる。



ツシマトリノフンダマシ (♀)
全長 7mm

鳥の糞ではなく、テントウムシに擬態している南方系のクモの一種。対馬で初めて発見されたことが名前の由来。オス成体は稀に発見される。

古典文学と里山の生きものたちの世界

第六回 ナマズ *Silurus asotus* ナマズ目ナマズ科

詩人 大島 健夫

日本の古典文学には、様々な生きものたちがいろいろな形で登場します。かつてこの国の人々はどのように生きものとかわり、その姿に何を見ていたのでしょうか。この連載では、昨年度から生物多様性センターに嘱託職員として勤務している、ポエトリー・スラム W 杯日本代表詩人の大島健夫が、^{いのち}生命のにぎわい調査団の皆様を過去の世界にご案内します。

身近な大型淡水魚であり食用にもなるナマズは、古来から、我が国の人々の営みと密接にかかわってきました。平安時代末期に成立した説話文学の金字塔『今昔物語』には、ナマズにまつわるこんなエピソードが収録されています。

ある夜、京北（京都の北部）の上津出雲寺の住職の夢に、亡くなった父親である先代住職が出てきて、「わしはいま、三尺のナマズとなって寺の瓦の下にいるが、水も少なく狭いので苦しい思いをしている。あさっての午後に大風が吹いてこの寺は倒れてしまうが、そうしたら這い出しておまえの前に行くから、子供に乱暴をさせないで川に放してくれ。広い水の中で安心して暮らしたい。」と告げます。はたしてその日その時が来ると、空はかき曇り、風は吹き荒れて寺は倒壊。裏の雨水だまりからたくさんの魚が出現し、夢の通りに三尺のナマズが住職の前に這ってきます。ところが住職は罰当たりな人で、このナマズを捕まえたばかりか、あまつさえ切り刻んで煮て「親父の肉だからうまいんだ」などと言って食べてしまい、ついには喉に骨を詰まらせて死んでしまうのです。ひどい話ですが、ここではナマズという魚が、死者の生まれ変わりであり、天変地異を予言し、最後には祟りをなすという、強い霊性を帯びた存在として描かれています。これはこのエピソードに限ったことではなく、日本のフォークロアの世界におけるナマズには常に、災厄の匂いと人知を超えた力の影がつきまっています。例えば福岡県に加茂神社には、飢饉の際、氏子の夢枕に現れたナマズが「ナマズを殺さないように」という神託をなし、それを実行した人々は救われたという、今昔物語とは真逆の伝承もあります。



作 石田 理紗

一方で、今昔物語に戻って当時の上津出雲寺の立地を検証してみると、これが鴨川にほど近く、上述の通り寺の裏の水たまりには他の魚もいたと記されていますから、季節や天候によって川とつながりがあったのかもしれません。ナマズは5～6月に繁殖期を迎え、水田などの浅い水域で産卵します。この三尺のナマズも、雨の多いそんな時期に川から上がってきて水たまりに取り残され、台風による増水で現れ出てきたものだったとすると、その行動は、自然科学的にも実際の生態と一致しているのです。

＜これからの季節に観察できる生きもの＞

○調査対象種：ミヤコドリ、オオバン、モズ、リンドウ、イチョウ（黄葉）、イロハモミジ（紅葉）

○調査対象種以外は種の同定が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします。

* 渡りのシギ・チドリ類、両生類、爬虫類など

* 各種昆虫（とくにバッタ、コオロギ、カマキリ）

* 希少生物や、外来生物の報告も受け付けています。

「生命のにぎわい調査団 現地研修会」のご案内 ラムサール条約登録湿地・谷津干潟を歩こう！

「東京湾の鏡」ともいわれるラムサール条約登録湿地の谷津干潟を実際に歩き、生きものや環境問題についてみつめます。

●開催日（どちらか一日、お好きな日を選んでください）

①令和元年 11 月 10 日（日） 9 時 30 分～12 時 30 分

②令和元年 11 月 12 日（火） 10 時 30 分～13 時 30 分

●定員：各日とも 40 名（申込多数の場合は抽選）。小学 3 年以上。小学生が参加する場合は保護者同伴。胴付長靴で干潟を歩くため、多少の体力が必要です。

●申込締切：10 月 18 日（金）必着（郵送または F A X）

●詳細は申込案内書をご覧ください。